政策コメンテーター報告（第3回、意見照会期間：2014年10月24日～11月5日） キャシー松井：ゴールドマン・サックス証券株式会社マネージングディレクター

質問事項		記述式回答
来年秋を見据えて、現在の景気の基調		
1	９月16日の経済財政諮問会議において、2015年秋を見据えて、現在の景気の基調を見る際、以下の5項目について今後注視すべきとされました。これらを参考に、現在の景気の基調や考慮すべきリスクをどうご覧になっているか、また、とるべき対応があれば、合わせて300字以内でご記入ください。 ① 消費の安定的増加、それを支える雇用者数・賃金の伸び（正規比率の上昇を含め）や消費マインド ② 企業収益の動向、民間設備投資の強さ（設備投資計画の動向も含む） ③ 輸出入の動向、交易条件の動向 ④ 物価動向（一時的要因を除いた実勢と期待物価） ⑤ マーケット（株価、為替、金利等）の動向	主なリスクとしては、1)実質所得の減少、2)業況判断DIが十分に回復してないこと、が挙げられる。実質所得を増やすには、企業にさらなる賃上げを促す必要がある。この点に関連して、賃上げ企業を対象とした法人税減税が提言されているが、実現すれば大きな効果が見込まれる。 景況感を高めるには、政府は構造改革、なかでも規制緩和を一段と推進し、経済成長見通しを全般に引き上げるとともに企業の国内投資を奨励する必要がある。
地方創生・地域活性化		
2	地方創生・地域活性化に向けて、重点的に取り組むべき課題及び対応策につき、ご自身（自社）の知見・経験も踏まえてお考えを300字以内でご記入下さい。その際、地方が抱える課題の背景についても、併せてご記入下さい。	地方経済の再生を促すため、投資奨励策をさらに拡大すべきである。米国と同様に、日本の地方自治体も国内外の企業による投資を税制面で優遇しており、効果を上げている。 また、地方自治体はさらに積極的に観光業を推進すべきである。瀬戸内海の現代アートの島々や北海道ニセコのスキー場などの成功例に見られるように、各地方が外国人観光客招致により多くの力を注げば、地域経済を大いに活性化するだろう。
その他		
3	10月下旬の為替相場は107円台付近で推移しています。最近の為替相場の動向やその景気への影響について、ご見解があれば300字以内でご記入ください。	円安は大手輸出企業に追い風となり、これら企業の国際競争力を高めてきた。しかし、原発が停止していることもあり、中小企業や家計セクターにはポジティブな影響ばかりではなかった。円安の進行速度ならびに規模は注視する必要があるが、企業収益や国内設備投資、国際競争力、デフレ･マインド脱却等の点で円安の影響は全般にポジティブであったと考えている。